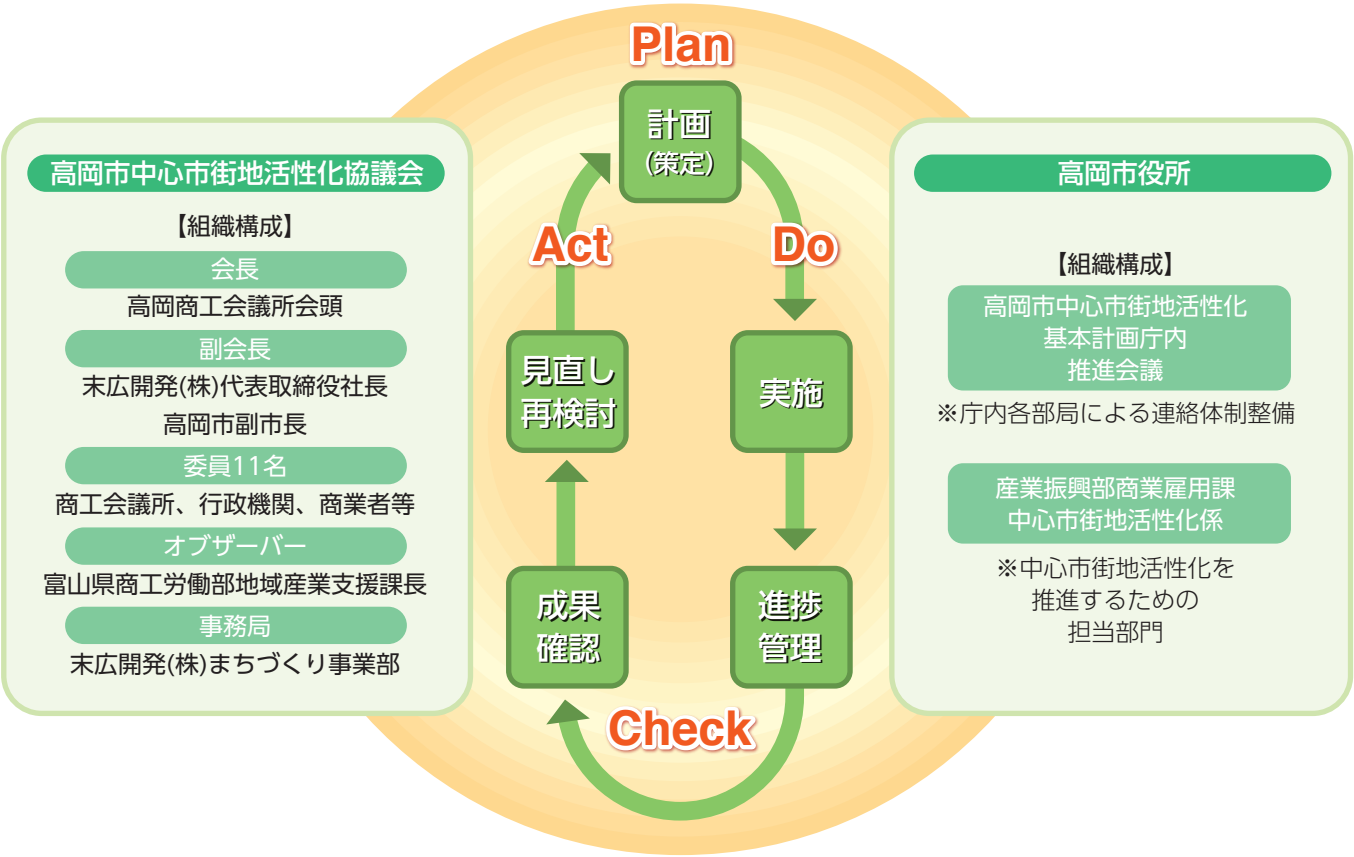


第1期計画策定時より、行政機関、商工会議所、商業者等で構成される「高岡市中心市街地活性化協議会」が設立され、中心市街地における課題の抽出やその解決策等について協議を重ねています。

高岡市と同協議会との官民一体となった協働により、高岡市中心市街地活性化基本計画に基づく事業の推進に努めるとともに、進捗管理や定期的なフォローアップなど、効果検証と計画の見直しなどを行いながら、中心市街地の活性化を目指します。



高岡市中心市街地活性化基本計画について

高岡市では、平成10年に制定された「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律」に基づく「高岡市中心市街地活性化基本計画」を平成12年7月に策定しました。

以降、平成18年8月の「中心市街地の活性化に関する法律」の施行を受けて、第1期(平成19年11月～平成24年3月)、第2期(平成24年4月～平成29年3月)、第3期(平成29年4月～令和4年3月)基本計画を策定し、中心市街地活性化に取り組んできました。

これまでの取り組みの成果や課題を踏まえながら、中心市街地の活性化をより強力に推進するため、新たに第4期基本計画(令和4年4月～令和9年3月)を策定しました(令和4年3月内閣総理大臣認定)。

高岡市産業振興部商業雇用課

〒933-0029 富山県高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ5階
TEL 0766-20-1592 FAX 0766-20-1496

令和4年3月策定



高岡市中心市街地活性化 基本計画の概要

人が輝き、人で輝く、人が主体の賑わいづくり

—— まちなかりスタート！南北一体化による交流シンカを目指して ——

令和4年4月

高岡市

中心市街地の現状と課題



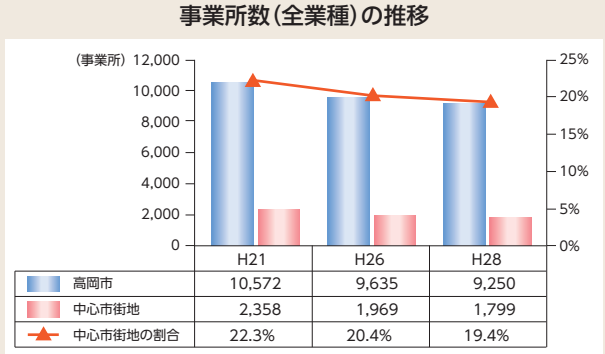
高岡市の中心市街地は高岡駅を中心とし、歴史・文化を受け継ぐとともに産業、行政の様々な都市機能を担い、まさに「高岡の顔」として発展してきました。

北陸新幹線の開業に伴う公共インフラ整備により集合住宅やホテル開発などが誘発されたほか、遊休資産を活用した複合商業施設や店舗の出店が相次ぐなど、市民、民間の意欲的な挑戦が新たな挑戦を生み出す好循環が生まれつつあります。

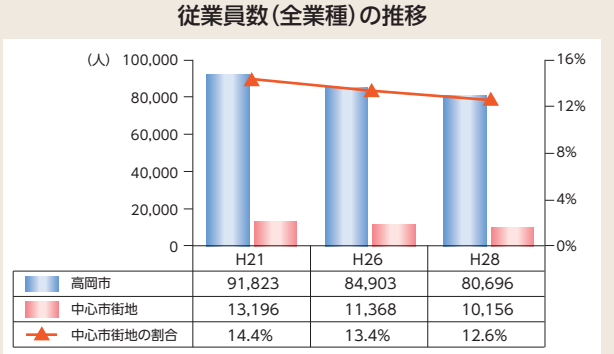
一方、都市の郊外化やeコマースの急速な進展に加え、長引くコロナ禍により中心市街地の物販、飲食などの商業活動は厳しさを増しています。百貨店撤退後の御旅屋セリオの有効活用、空き家、空き店舗が増加する商店街エリアの賑わい創出などの課題を抱えています。

商業機能の維持・向上

事業所数、従業員数は減少が続き、高岡市全体に占める割合も低下傾向にあります。こうした集積度の低下は、中心市街地だけでなく市全体の都市機能低下、活力低下につながることから、都市機能の向上を図る必要があります。



出典：総務省「経済センサス基礎調査」および総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」
(注)中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計



出典：総務省「経済センサス基礎調査」および総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」
(注)中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計

第3期高岡市中心市街地活性化基本計画における目標と達成状況

計画期間：平成29年4月～令和4年3月(5年)

区 域：約340ha(平米、定塚、下関、博労、川原、成美の6地区と金屋町を中心に構成)

目標① 交流人口の拡大

○主要観光施設における観光入込客数



基準値、目標値をともに下回っている。

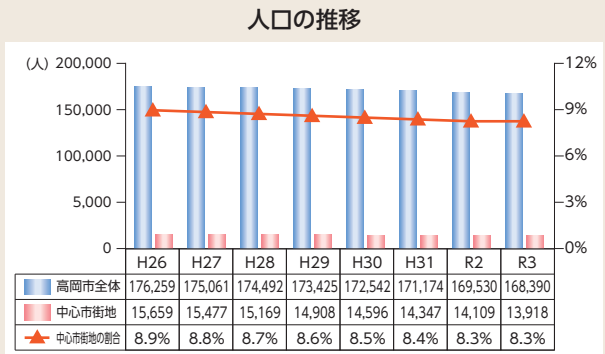
○中心商店街・観光地周辺(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値



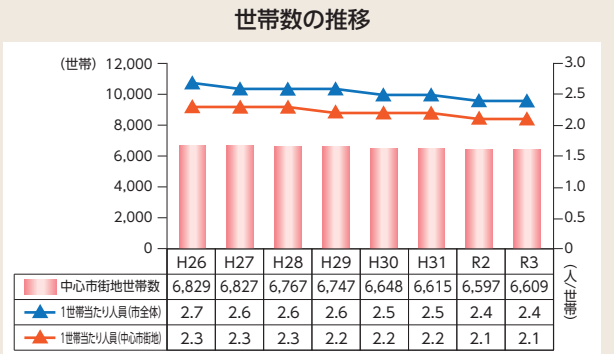
基準値、目標値をともに下回っている。

人口減少への歯止め

人口、世帯数ともに減少が続き、1世帯当たりの人員も全市平均を下回っていることから、今後も更なる空洞化と活力の低下が懸念され、居住人口の増加を図っていく必要があります。



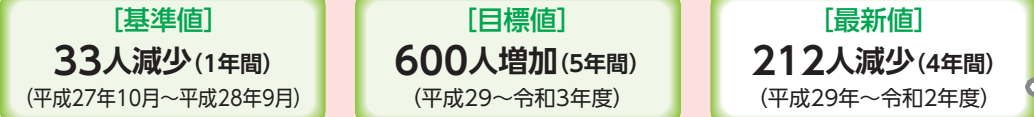
出典：住民基本台帳(各年3.31現在)



出典：住民基本台帳(各年3.31現在)

目標② まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実

○中心市街地における居住人口の社会増減数



基準値、目標値をともに下回っている。

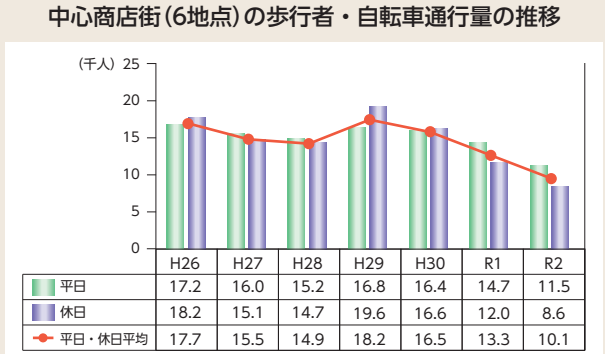
○中心市街地・観光地周辺における新規開業店舗数



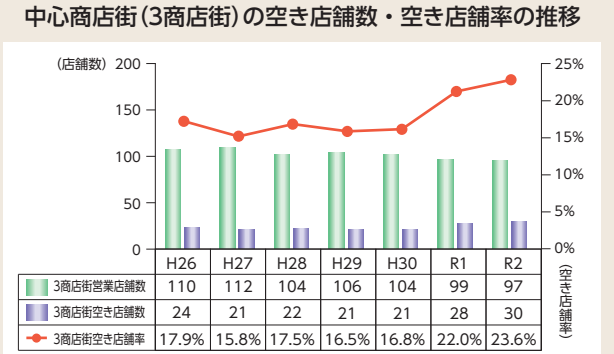
基準値、目標値をともに上回っている。

さらなる賑わいの創出

歩行者・自転車通行量の減少や空き店舗数の増加がみられ、今後は百貨店撤退後の空きフロアの活用も含め、目的を持って訪れる場所への転換を図り、周辺の賑わい創出に取り組んでいくことが重要です。



出典：高岡市商業雇用課「歩行者・自転車通行量調査」



出典：高岡市商業雇用課・未広開発㈱「空き店舗調査」

中心市街地の活性化を目指して

現状分析

1. 高岡市及び中心市街地の位置づけ	2. 歴史・文化資産の活用	3. 市街地の整備改善	4. 都市福祉施設の向上	5. まちなか居住の推進	6. 高齢化社会への対応	7. 中心商店街の活性化	8. まちづくり会社の役割	9. 公共交通機関の利便性増進
●北陸新幹線新高岡駅が分離駅で開業 ●富山市・金沢市は日常生活圏内 ●呉市の交通結節点・中心市街地の中心性の低下 ●全産業における事業所数の減少	●指定文化財等が多数集積 ●歴史・文化資産を生かしたまちづくりへの期待 ●観光地間の繋がりが弱い消費行動が弱い	●平成時期に4つの再開発事業により拠点整備 ●高岡駅の乗換え利便性向上、南北市街地一体化 ●防火建築帯等施設の老朽化 ●高岡駅周辺での民間主導による再開発の動き	●生涯学習センターや子育て支援センターなど、都市福祉施設が充足しており一定水準のサービスは提供	●空き地・空き家が高い水準、人口減少の進展 ●まちなか居住者の高い満足度 ●空き地・空き家が点在し、宅地開発を阻害 ●高岡駅周辺での集合住宅建設の活発化	●市内平均を上回る高齢化率 ●高齢者にとって安全で暮らしやすいまちなかへの期待	●小売業の商店数・従業者数・年間販売額の減少 ●高岡駅周辺や観光地から中心商店街への低い回遊性	●賑わい創出事業の開催や開業促進など、中心市街地の活性化への幅広い活動の実施 ●より一層の活動促進と創意工夫	●公共交通の利用者は減少傾向だが、依然として高岡駅周辺は交通・交流の結節点として重要 ●高岡駅と新高岡駅の一体的活用が必要

課題

商業核の消失(百貨店撤退)による集客力の低下 (1・3・5・6・7・8・9 関係) ●百貨店撤退後の空きフロアを活かした多様な交流へと繋げるべく、公益機能の整備やテナント誘致、周辺の賑わいづくりに努めることが必要	北陸新幹線開業効果の減少 (1・2・3・7・9 関係) ●新高岡駅の拠点性や認知度は高まっているものの、新高岡駅を起点とした広域周遊観光の中で、高岡の魅力を十分に伝えることが必要	生活サービス機能の充実(ハレ)から(ケ)への転換 (1・3・4・5・6・7・8・9 関係) ●郊外の大型ショッピングモールの拡張やロードサイドのスーパー、ドラッグストアの競合、電子商取引の急速な進展など、商環境の大きな変化への対応が必要	遊休資産を活用した新たな価値の創造 (1・3・4・5・6・8・9 関係) ●中心商店街の購買層 求める商品、販売する店主の高齢化、店舗兼住宅の住居化が進む一方で、若い世代に新たな価値を見出してもらえないような、空き物件を活用した事業展開を進めることが必要
--	---	--	---

基本方針

多様な目的で人が行き交い、交流するまち	新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち
---------------------	------------------------

高岡市中心市街地活性化基本計画

今回、第3期基本計画の期間終了を受け、これまでの取り組みの成果や課題を踏まえながら、引き続き中心市街地の活性化を強力に推進するため、新たな基本計画を策定しました。

○計画期間：令和4年4月～令和9年3月(5年)

高岡駅周辺を核とする都市機能の集約を念頭に、物理的、心理的な分断・境界をなくし、一体的かつ効率的なまちづくりを図るため、「南北一体化」を中長期的な目標に掲げ、市民みんなで語り合い、共に考え、共に行動しながら、多様な人が多様な目的で集い、楽しむ中心市街地づくりに取り組んでいきます。

目指す都市像

人が輝き、人で輝く、人が主体の賑わいづくり
～まちなかりスタート! 南北一体化による交流シンカを目指して～

※「シンカ」は、深化、進化、新化など複数の意味を持たせることから、カタカナでの表記とする

多様な目的で人が行き交い、交流するまち

目標① 交流人口の拡大

目標指標1

主要観光施設における観光入込客数

351,000人
【基準値:令和元年】

24,500人増
(約7%増)

375,500人
【目標:令和8年】

目標指標2

中心商店街・観光地周辺(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

14,425人
【現状:令和元年度】

575人増
(約3.8%増)

15,000人
【目標:令和8年度】

新たなチャレンジとライフスタイルを楽しむまち

目標② まちなか居住と生活サービス・事業創出機能の充実

目標指標1

中心市街地における居住人口の社会増減数

50人減(1年間)
【現状:平成29～令和2年度】

50人増/年間のペース

±0人増(5年間)
【目標:令和4～8年度】

目標指標2

中心市街地・観光地周辺における新規開業件数

57件(4年間)
【現状:平成29～令和2年度】

12件/年間のペース

60件(5年間)
【目標:令和4～8年度】

目標①

交流人口の拡大

リノベーションまちづくり事業

増加傾向が著しい空き家、空き店舗等の遊休資産を、民間活力によりリノベーション、新しい使い方による「街のコンテンツ」を生み出すことにより、来街機会と賑わいの創出を図ります。

また、「御旅屋エリアビジョン」(大型複合ビル「御旅屋セリオ」周辺「エリア」の特徴とこれを好むファンを絞り込み、そのファン層に対し集中的に資本(時間、予算、人員等)を投下する)に基づく賑わい施策を展開します。



商店街の空きビルのリノベーション事例

歩いて楽しいまちづくり事業

コンパクト・アンド・ネットワークによる持続可能な都市構造を確立するため、都市機能や居住機能の充実に加え、自動車に過度に依存しない、ウォーカブルシティの実現、歩いて楽しいまちづくりを実践します。



R2年10月実施イベント
(アーケード通りに人工芝を設置)の様子
※参考イメージ

セリオタウン推進事業

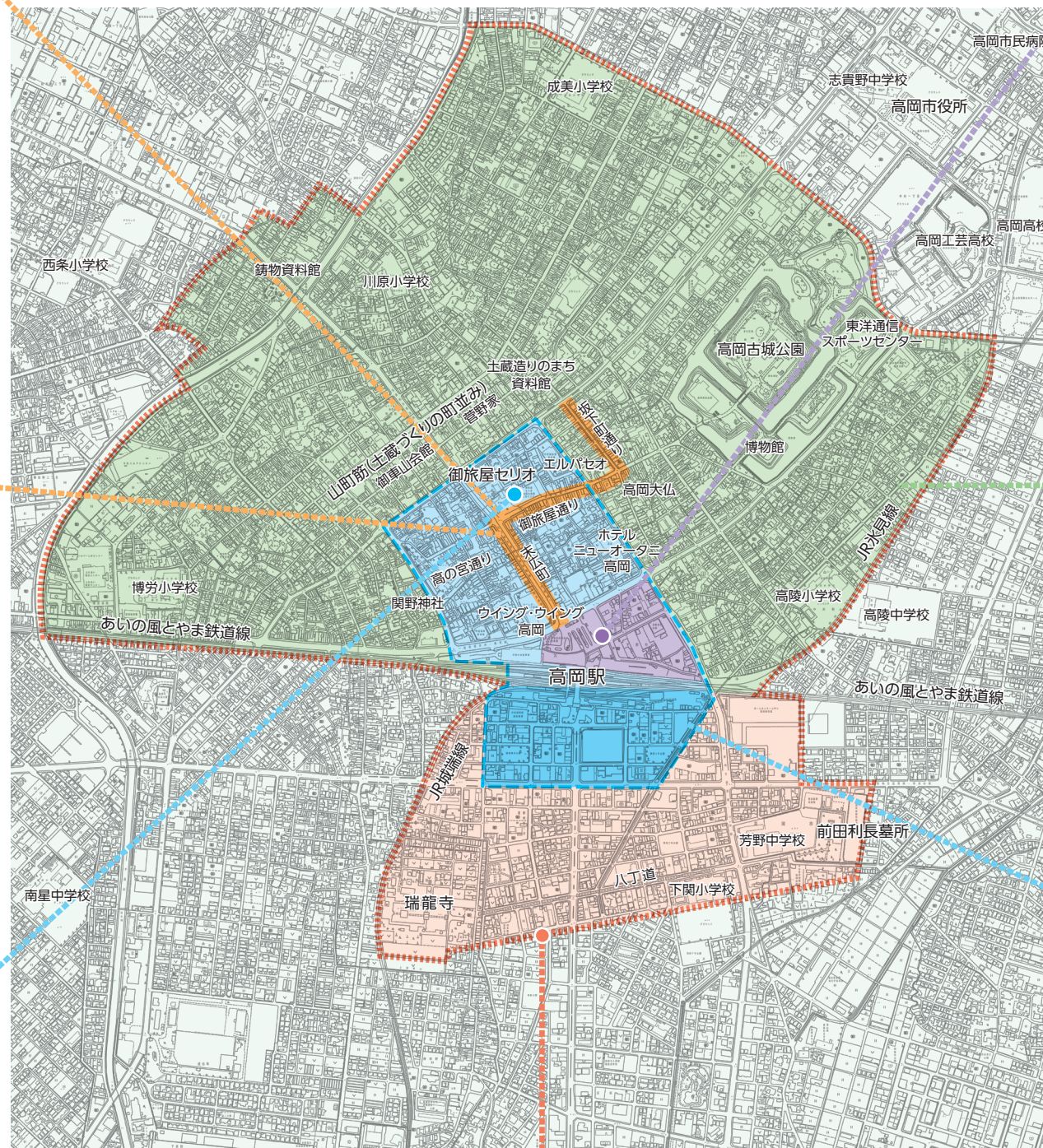
御旅屋セリオを中心市街地の中核とし、市民が集う場所「セリオタウン」として賑わいを創出すべく、オタヤ開発(株)や経済界と新たなテナント誘致に努めるとともに、御旅屋セリオへの公益的機能の導入やイベント実施など多様な人が多様な目的を持って訪れる場づくりを進めています。



〔御旅屋セリオ〕

中心市街地活性化に向けて 取り組む主な事業

第4期高岡市中心市街地活性化基本計画では、新たに定めた2つの基本方針のもと、行政、民間企業、地域住民や関係団体が一体となって82の事業に取り組みます。
(令和4年3月現在)



中心市街地区域(約340ha)

目標②

まちなか居住と生活サービス・ 事業創出機能の充実

高岡駅前東地区整備事業

商業・業務施設・住宅等が混在した市街地を形成している当地区は、老朽ビルや木造家屋など、中低層の建物が多く立地し、空地等の低未利用地も多く存在していました。

再開発事業や面的整備などの都市基盤整備によって街区が賑わいの核となるよう、民間活力による専門学校やホテルやマンション等を整備します。



マンションのイメージ図

たかおか暮らし支援事業

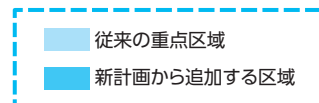
コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり、空き家対策、少子高齢化や人口減少の対策として、新築、建売・中古住宅の取得、新築分譲マンションの取得、隣地取得、隣地建物除去、耐震改修、断熱改修、三世帯同居改修の一部を支援します。



〔池の端通り〕

賑わい集積開業等支援事業

市内の中心市街地や観光地周辺、商店街形成区域において、空き店舗の取得または賃借、空き地の取得や店舗建設等によって小売り・サービス業等を出店される方を支援します。



〔山町ヴァレー〕